

## Y05c 大規模カタログデータの簡易検索・大量出力サービス

中嶋浩一、辻村とも子(一橋大学)

天体カタログデータの検索サービスとしては、CDS(ストラスブール天文データセンター)の提供する VizieR サービスが広く用いられており、また各地の天文データセンターにおいてそのミラーサービスが利用可能になっている。一般に天文データ・カタログは多様な形式で提供されており、これを各人が直接処理・検索することはかなりのプログラミング労力を必要とするところであるが、VizieR サービスでは多様な天文データ・カタログから規格化された方法で容易にデータが検索できるようになっており、データ処理の省力化に大きく貢献してきた。また近年では、Aladin などの画像サービスや VO(Virtual Observatory) との連携をも視野に入れた整備が行われつつある。

しかし他方で、データ処理の需要の側でも多様化が進んでおり、たとえば大規模カタログをより直接的に操作すること、あるいはより大量のデータを高速で取得すること、などがその例として挙げられる。このような場合、VizieR サービスの出力制限(9999 レコード以内)や、web 出力形式などが障害となってきた。

このような需要に関して、国立天文台データ解析計算センターの天文データサービスでは、特別な処理ソフトを開発して表記のようなサービスを行ってきたが、今回このサービスの機能・体系が整備されたので、その詳細を報告する。またあわせて、今後発展が予想される VO サービスとの整合性についても論ずる。